

令和8年（2026年）10月14日

保護者の皆様

札幌市立手稲西中学校

校長 塚本 慈彦

令和8年度全国学力・学習状況調査結果について

晩秋の候、保護者の皆様にはますます御健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃から本校の教育活動に温かい御理解と御協力をいただき心から感謝申し上げます。

さて、本年4月22日（水）・23日（木）・5月8日（金）に第3学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」につきまして、文部科学省から学校にその結果が届き、先頃、保護者の皆様にも生徒を通じて個人票をお渡ししたところです。本校においては、今回の調査結果をもとに、生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるために分析を進めてまいりました。このほど、その結果がまとまりましたので、その概要についてお知らせいたします。御家庭での指導等に御活用ください。

なお、調査結果の公表については、「序列化や過度な競争が生じないように配慮しつつ、各学校が自校の結果を全国平均と比較し、±3ポイントの幅を基準とした5段階による言葉を用いたり、成果と課題を丁寧に捉え、具体的な改善策を示したりすることとする。」という札幌市の方針を受け、以下のように示しております。

〔国語〕、〔数学〕について、それぞれ領域ごとの本校の平均正答率と全国平均との差を用いて比較する。

+3. 1ポイント以上	⇒「△上回っている」
+3. 0ポイントの範囲内で全国平均を上回る	⇒「◇ほぼ同程度であるが、やや上回る」
全国平均と同じ	⇒「－ほぼ同程度」
－3. 0ポイントの範囲内で全国平均を下回る	⇒「◆ほぼ同程度であるが、やや下回る」
－3. 1ポイント以下	⇒「▼下回っている」

「英語」については、本校が「課題」と捉える問題を抽出し、それに対する「改善の方向」を示す。

また、本調査により測定できるのは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面であることを御理解いただけますようお願いいたします。

【中学校国語】

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
中学校国語 【領域】 「言葉の特徴や使い方に関する事項」 ◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。 「話すこと・聞くこと」 ▼全国平均より下回っている。 「書くこと」 ◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。 「読むこと」 ◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。	➤助動詞のはたらき、単語の種別とその活用について理解すること。 ➤目的や場面に応じて、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。 ➤気持ちがより伝わるように、表現の効果を考えて描写すること。 ➤目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈すること。	➤単語の種別や活用、助動詞の働きについて学習したことを基にして、その特徴やきまりなどに気づかせる学習活動の充実。 ➤話し合う活動の中で、その目的や場面に応じて集めた材料を整理し伝え合う内容を検討したり、話の内容を捉えるために質問したりした上で、互いの立場や考えを尊重しながら考えをまとめる学習活動の充実。 ➤書き手が目的と意図に応じてどのような表現の工夫をし、それはどのような効果があったかなど、事物の描写の仕方、表現の技法、文末表現などの語句の用法に着目する学習活動の充実。 ➤目的を明確にした上で要約するとともに、要約したものが目的に沿っているかどうかを考え、必要な情報を正確に捉えられるようにする学習活動の充実。

【中学校数学】

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
中学校 数学 【領域】 「数と式」 ▼全国平均より下回っている。 「図形」 ▼全国平均より下回っている。 「関数」 ▼全国平均より下回っている。 「データの活用」 ▼全国平均より下回っている。	➤同類項の意味を理解すること。 ➤問題場面における考察対象を明確に捉えること。 ➤具体的な事象を基に、証明する事柄の過程を見出すこと。 ➤筋道を立てて考え、証明すること。 ➤反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、xの値に対応するyの値を求めること。 ➤累積度数の意味を理解すること。 ➤起こりうる場合を樹形図や表を利用するなどして整理し、確率を求めること。	➤多項式の各項を係数や文字の種類、次数に着目して分類する学習活動の充実。 ➤予測した事柄が成り立つことを具体的な数で確認し、その理由について考察し、条件を変えて共通する性質を見出すなど、統合的・発展的に考察する学習活動の充実。 ➤図形の性質を考察するとき、問題文から直接分かることや証明すべき事柄を整理し、見通しをもって筋道を立てて数学的に説明する学習活動の充実。 ➤対応表から分かる2つの数量の変化や特徴を調べ、その関係を捉えたうえで、表、式、グラフに表す学習活動の充実。 ➤示されたデータを度数分布表や累積度数分布表、度数分布多角形、箱ひげ図などに整理して分析し、その傾向を説明する学習活動の充実。 ➤同様に確からしいことに着目し、起こりうるすべての場合を樹形図や表に表し、確率を求める学習活動の充実。

【中学校英語】

今回の調査における課題

【領域】

「聞くこと」

- 日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ること。

「読むこと」

- 日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を読み取ること。
- 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ること。

「話すこと」「やり取り」

- 言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用すること。

「話すこと」「発表」

- 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すこと。

「書くこと」

- 言葉や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けること。

改善の方向

- 友達や家族、学校生活などの日常的な話題について、一語一文の意味などの細かい部分にとらわれることなく、時間の経過や話の展開を示す語句に着目し、話全体の流れや要旨を捉えて、必要な情報を聞き取る学習活動の充実。

- 複数の情報を含むまとまりのある内容を読み、目的や場面、状況等に応じて必要な情報を読み取ったり、自分の置かれた状況などから何が自分にとって必要な情報であるのかを判断した上で読み取ったりする学習活動の充実。

- 英語の音声や語彙、表現、文法の知識を話すことにおける実際のコミュニケーションにおいて活用することや、言語材料について理解したり練習したりするための学習活動の充実。

- 事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、簡単な語句や文を用いてまとまりのあるスピーチをする学習活動の充実。

- 音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、文構造や文法事項を正しく用いて正しい語順で文を構成することや、伝えたいことについての情報を正確に捉え、整理したり確認したりしながら書く学習活動の充実。

【生活習慣や学習環境に関する質問調査結果の概要】

すべての質問について、肯定的な回答を合計し、全国平均と比較した結果について、特徴的なものをお知らせいたします。

（１）全国平均と比較して、肯定的な回答の割合が高いもの

- ・将来の夢や目標をもっている。
- ・インターネットを使って情報を収集すること（検索する、調べるなど）ができていると思う。
- ・ＰＣ、タブレットなどのＩＣＴ機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思う。
- ・普段（月～金曜日）、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等で、１日当たり３時間以上、ＳＮＳや動画視聴などを行っている。
- ・国語の勉強は得意である。
- ・国語の授業の内容はよくわかる。
- ・１、２年生のときに受けた数学の授業では、学習したことを普段の生活の中で活用できている。
- ・英語の授業の内容はよくわかる。

（２）全国平均と比較して、肯定的な回答の割合が同程度のもの

- ・朝食を毎日食べている。
- ・友達関係に満足している。
- ・人が困っている時には進んで助けている。
- ・困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。
- ・学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、１日１時間以上勉強をしている。
- ・学級活動の学級での話し合いを生かして、今自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。
- ・１、２年生のときに受けた授業は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。
- ・１、２年生のときに受けた国語の授業では、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれた。
- ・１、２年生の時に受けた数学の授業では、問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えた。

（３）全国平均と比較して、肯定的な回答の割合が低いもの

- ・毎日、同じくらいの時刻に寝ている。
- ・学校に行くのは楽しいと思う。
- ・自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。
- ・学校での悩みについて、あなたの親や家族は、月に１，２回以上あなたと話している。
- ・数学の勉強は好きである。
- ・１、２年の時に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。
- ・１、２年生の時の数学の授業では、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていた。
- ・１、２年生の時の英語の授業では、キーボードを使って英語を書く活動を行っていた。

質問調査の結果を見ると、「朝食を毎日食べている」と回答した割合は全国平均と変わらないものの、起床・就寝の時間、特に「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答した割合は全国平均を 20 ポイント近く下回っています。また、「普段、学習以外でスマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等を使って、1 日 4 時間以上、SNS や動画視聴をしている」と回答した割合は 36%、3 時間以上では 61%に達しています。この後、課題や翌日のテスト勉強をするため、起床・就寝時刻がまちまちになっているとも考えられます。SNS の使い方や利用時間を今一度考える必要があるようです。

「将来の夢や目標をもっている」割合は 77%で全国平均を 10 ポイント近く上回っているものの、「学校へ行くのは楽しい」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」の回答は、全国平均を 10 ポイント以上下回っています。さらに、「自分にはよいところがあると思う」や「人が困っているときには進んで助ける」「人の役に立つ人間になりたい」「地域や社会をよくするために何かしてみたい」については、全国平均と比べて肯定的な回答の割合が 5 ポイント程度低い傾向がみられます。これら自己肯定感や自己有用感を高めるためには、様々な活動を通して小さな成功体験を積み重ね、他者から認められる場面を作り出していくような働きかけが必要であると考えています。

教科の学習については、今回調査した、国語、数学、英語とも、意欲的に取り組んでいる様子がうかがえます。また、教科の学習を普段の生活の中で活用できている実感もあるようです。その半面、「自分の考えを説明する場面の創出」や「タブレットの利用」「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組む」活動については、改善すべき点も多く示されています。これらの改善のために、子ども達の学習意欲をさらに高め、一人一人が自分の成長を実感できるように、引き続き本校の「学ぶ力」育成プログラムに基づく取組を全教職員で共有し進めていきます。また、道徳や総合的な学習の時間も含めて、子どもたちが興味関心をもって意欲的に学習に取り組み、将来の夢や希望の実現に向けて必要な資質や能力を育成できるよう、教科研修を深めていきたいと思います。

子どもたちが抱えている学校での悩みを解決するために、教育相談週間の他にも「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」環境を整え、普段の生活の中で気軽に相談できる関係をつくり、生徒の思いに耳を傾け、困り感を解消し、誰もが安心して楽しく過ごせる学校づくりを目指します。

ここに挙げたものは、あくまで生徒がもつ一面に過ぎません。本校では、生徒の良さ、可能性をさらに伸ばし、課題の克服に向けて、教育課程の充実と授業の工夫改善に努めて参ります。御家庭での御理解と御協力をよろしくお願いします。